

鳥取西高近畿同窓会報

第18号

2025年4月1日発行

発行：鳥取西高近畿同窓会
発行責任者：窪田邦倫（西高45年）
編集責任者：山内紀嗣（西高43年）



邦楽の記念演奏

右は林 沙奈さん、左は植村京子副会長



今回は、鳥取からご来賓として小谷文夫同窓会長、國岡進校長、大阪の鳥取県関西本部から森本誠人本部長も出席され、総勢約六〇人での開催となりました。
『還暦』を祝う邦楽の記念演奏で総会・懇親会がスタート。母校の創立一五〇周年記念式典映像の紹介や全国の大会で活躍されている遠藤準二さん（三三年）の民謡披露、植村京子さん（三四年）らによる三弦の素晴らしい演奏、スポーツジム経営の高垣昭和さん（平成九年）のストレッチ指導など、記念総会にふさわしい多彩なアトラクションがあり、会場は大いに盛り上がりました。

創立六〇年総会開催 「成長」「安定」「進化」

鳥取西高近畿同窓会

会長 窪田 邦倫

（西高四五年）

第60回鳥取西高近畿同窓会ご案内

日時：令和7年6月22日（日） 11:00～14:30
（受付は10:30より）①総会：11:00
②懇親会：12:00～14:30

会場：大阪キャッスルホテル6階

大阪市中央区天満橋京町 1-1 TEL 06-6942-2401

参加費：¥9,000 <当日会場にご持参ください>

（29歳以下の方は6,000円、親子・夫婦会員は一人1,000円減額します）

長寿（80歳以上）の方のお祝いは当日出席された39年ご卒業の方、38年以前でお祝いがまだの方が対象となります

最後は全員で校歌斉唱。約三時間半の総会・懇親会は、楽しく和やかな集いとなりました。「今年は何年」。しかも、「乙巳（きのとみ）」。「乙」の持つ【成長】と「巳」の持つ【安定】が組み合わさり、困難を乗り越えながら着実に目標に向かって進み、良い未来を築いていくことを意味します。
社会は急速に変化しています。近畿同窓会は千支の意味する「成長」と「安定」に変化ではなく「進化」を加え、さらなる飛躍を目指したいと思えます。引き続き、皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

老いを楽しむ

水谷（田中）陽子（西高四三年）

お抹茶をいただく時に、「二回。三回。」と茶碗をまわす回数をたずねられることがあります。お茶を点てた方（亭主）は、茶碗の一番美しいところを正面にして、お茶をいただく方（客）へ出します。客はその気持ちを受けとめて、美しいところを少しずらしてお茶をいただく。茶碗を回すことではなく、お互いに敬意をもって人と対することになります。茶道（ちゃどう）は人を敬うことが大切だ。稽古をはじめた最初に学びました。

茶道は、季節を楽しむ文化でもあります。昨年の新緑の頃、茶名を持つ同級生が「西高同期茶会」を開いてくれました。

打ち水をされた庭からお茶席へ入ると、炊きこめられたお香の香りが、すうつとお茶の世界に迎え入れてくれます。掛軸は「甲冑」。菓子は「杜若」。茶杓の銘は「登竜門」。裏には兎が描かれていました。緑色の美しいお茶を、端午の節句にちなんだ茶碗に点ていただき、馥郁とした香りと



ともに喫した時、日常の空間がよそいきに変わりました。そしてその一服のお茶は、私たちを清々しく、今まで以上にうちとけた関係にしてくれました。

茶道は室町時代から続く日本の文化。様式美も学ばなければなりません。六〇才の退職を機に茶道の稽古をはじめた私は、この様式美を学ぶことが難しく、『若くはない。けど練習する時間はようけある。』と、自分をこざらかしながら一五年がたちました。近頃は手首の動きがままならず、茶筌が上手くふるえません。立ちあがる時には手をついて一呼吸、それでもふらつきます。老化の加速は、日々速まりますが、背すじを伸ばしてお茶を点て、学び続けられる境遇に感謝。ほんのわずかな進捗が、続ける大きな力になっています。『日日是好日』。老いるのも悪くない。と、思えるお茶のお稽古です。



「いま、お伝えしたいこと」

佐々木 宏（西高五三年）

昨年（二〇二四年）十一月、倉吉市内で開かれた鳥取県高校野球連盟主催の指導者講習会に招かれ、監督、部長、現役選手らを前に「いま、お伝えしたいこと」と題して、県勢にエールを送る機会を得ました。古巣の朝日新聞社で高校野球を取材、大会運営にも携わり、いまは夏の甲子園で公式記録



員を務めている立場から、県勢に奮起を促すアドバイスをしてほしいと依頼を受けたものです。

現在、県勢の夏の戦績はコロナ禍で大会中止となった一〇二回大会を挟んで九大大会連続初戦敗退、四七都道府県の中で最も勝ち星から遠ざかっています。しかも直近の一〇四回〜一〇六回の三大大会は二七二回無得点、ゼロ行進の屈辱を喫しています。その公式記録のデータを基に、ファーストストライクを狙うなど積極的に点を取りに行く姿勢が大事であること、対戦相手が次の試合でどう戦っているのかを勉強すること、近い将来、野球が九イニングから七イニング制に変更する可能性が高いので、戦い方が変わる備えもアタマに入れることなど、全国優勝の経験を持つかつての名将監督さんの分析を添えて話しました。

まれば、上位進出の下地は十分。昨秋の県大会は一回戦で米子東に惜敗しましたが、打撃力のアップ次第では、準優勝した一昨年のチームと遜色なく甲子園を狙えると期待しています。

ご報告をもう一つ。全国高校野球選手権鳥取大会の記録集を昨年二月、鳥取県高野連から発行しました。新聞社を退職後、ボランティアで四年がかりで取り組んできたものです。

古い資料がないため、一県一代表制となった六一回大会（一九七九年＝昭和五四年）以降に絞って、鳥取西高の倉庫に整理されないまま眠っていたスキャンシートを一試合ずつチェック。保管されていなかった六一〜六五回、行方不明の八六回、八九回の計七大会は朝日新聞鳥取版のスクラップから試合記録を拾い出して、可能な範囲内で整理しました。

一昨年は一〇五回の記念大会で、日本高野連から支給された四〇万円を財源に記念事業の一環として作成することができました。

大会記録や一試合記録のほか、六一回大会で無安打無得点試合（ノーヒット・ノーラン）を達成した鳥取西・額田和男投手などかつての球児四人へのインタビュー記事、甲子園で公式記録を担当した立場から鳥取代表にエールを送る分析コラムの読み物も盛り込みました。また、四五大大会で計三三三本あった本塁打の打者全リストも掲載し

ました。八八〇円(税込込み)で県内最大の書店、今井書店や県大会の入場券販売所などで販売。新聞各紙に紹介されたこともあり、日本海新聞に載った週刊ベストセラーランキングで発売直後は一位になり、増刷もされました。残部は二〇〇部程度と報告を受けています。売上金は県高野連の活動費に役立ててもらっています。



伊勢神宮への家族旅行

別府(山本)昌子(西高五七年)

令和五年は私にとって久々の旅行や懐かしい友人や親戚、家族との交流の場を多く持つことのできた年でした。

特に心に残るのは、コロナや私の病気の



治療のために祝えていなかった二年遅れの主人の還暦祝いで行った伊勢神宮への家族旅行です。伊勢神宮には三〇年以上前に主人と二人で行ったきり、いつか家族でお参りしたいと思っていた場所でした。

今回は正式な参拝方法の外宮から内宮へと参拝しました。午前一〇時頃、自宅のある甲子園を車で出発しドライブインで休憩をしながら午後二時過ぎに外宮前に到着、「お昼はやつぱり伊勢うどんでしょ」と長男と次男、どの店にしようか迷っていると息子二人がスマホで評判のいい老舗のお店を見つけてくれました。昔ながらの木の引き戸を開けるとカウンター席とテーブル席が少しある狭い店内はいっぱい。断られるかと思っていると、直ぐにお客さん数人が席をたち、私たち家族四人は無事カウンター席へ、ホッととして店内を見渡すと、壁には年を経た古いうちわと招き猫と色紙の額がいくつか飾ってあり、どの色紙にも心に響く言葉が書かれていました。

中でも招き猫の側にかけられた色紙の言葉には、ハッとさせられました。『幸せだから笑うんじゃない。笑っているから幸せなんだ。』甘い味噌がよくなるからんだおいしい伊勢うどんを食べながら、本当にそうだと思いました。そして、亡くなった母がよく言っていた、「辛い時こそ笑顔で過ごす。」の言葉も思い出しました。

幸せになりたいなら、今を大切に生きたいなら、明るい心で明るい笑顔で生きること。そうしていれば人生何とかなる。そんな勇気と元気をもらい、ほっこりとした気



持ちになつて主人と二人の息子の後についていざ、伊勢神宮へ。

参拝時間は午後五時まで、外宮と内宮とは車で一〇分ほど離れています。ゆつたりと参道を行きかう人の中、さつと外宮の参拝をすませ内宮へ、内宮は観光バスが何台も停まり、ぞろぞろと長い列をつくった参拝者が宇治橋鳥居をくぐって橋を渡っていきます。意外と若い人も多く、老若男女を問わず昔からずっとここへ多くの人々がお参りに来ていると思うと感慨深いものがありました。

「伊勢神宮では個人のお願いはしないんだよ。」と長男のうんちくに耳を傾けて、「世の中の平和」を祈って伊勢神宮を後にしました。

夕食は、名物の伊勢海老などひさびさの旅館のご馳走をいただきながら、長年家族のために頑張ってくれた主人の還暦を祝いました。

翌日は、夫婦岩の見える二見興玉神社へ。三〇数年前、主人と二人で来た場所に家族四人揃って行ける幸せをかみしめ、これからも夫婦円満、明るく生きようと気持ちを新たに帰路へとつきました。

今年はいよいよ皆様にとつてどんな年になるのでしょうか。私は今でも高校の卒業式で学年主任だった先生が『人間万事塞翁が馬』君たちの人生でこれから色々なことが起こるだろう。でもおこることなく落ち込むことなく頑張ってほしい』と言われたエールの言葉に励まされています。

会員の近況

(昨年の返信はがき通信欄より)

浜本(谷口)英子(高女二四年)元気がしていますが、しばらくででかけるのが億劫になりました。

大谷(雑賀)光子(西高二五年)日々体力は弱っていますが、精神的にはまだまだ頑張っているつもりです。

西村永二(西高二七年)六〇歳をすぎてから始めました散歩のおかげで、現在も毎日三千歩、休み休みながら五千歩歩けます。人生楽しいです。

松永(前根)澄子(西高三〇年)知らぬ間に米寿を迎えていました。

谷口(村中)頌世(西高三二年)朝のテレビ体操、週一回の足の筋力体操、グループでの輪投げなど楽しんでます。

遠藤準二(西高三三年)歩行に少し支障がありますが、まだまだ元気に活動しています。

次ページに続く



ハルジオンの花

坂口 勇(西高三三年) サウジアラビアの国家、又ワールドワイドに展開できるビジネスに挑戦しています。

花房章次(西高三四年) 心臓のバイパス手術を受けました。老齢のため回復に時間がかかります。

花房(板垣)若葉(西高三四年) 元気で地元の老人会を中心に趣味の集まりに参加して楽しくすごしております。

川上恵子(西高三四年) 六五歳から始めた高齢者のカレッジを八二歳で卒業しました。今年からはマイスターユースで頑張ります。

中原悠司(西高三四年) 堅くなつていく頭脳の刺激となるよう大阪府民カレッジ茨木校に通学しています。

橋本 勝(西高三五年) 妻と共に友人の水彩画作品展を見に行きました。体調に留意しながら日に四〇分程度のウォーキングを継続しています。

市川渥史(西高三七年) 地区の「老人会便り」を発行しています。

建部 敦(西高三七年) 京都の山科で毎日楽しく元気に過ごしています。

田中三郎(西高三八年) 体力は衰えましたが元氣です。

松田春一(西高四〇年) 左膝のリハビリに通いながらの毎日です。

昨年の総会にて会計報告に間違いがありましたのでお詫びして訂正いたします。

令和6年度予算(案)修正分

<自 令和6年1月1日～至 令和6年12月31日>

収入の部		(単位 円)		
科目	予算	差	前年(R5)実績	備考
前年度繰越	970,511	-114,244	1,084,755	
収入				
年会費収入	325,000	70,282	254,738	135人
総会費収入	585,000	198,000	387,000	65人参加
雑収入	10	3	7	副貯利子
収入計	910,010	268,285	641,745	
合計	1,880,521	154,021	1,726,500	

支出の部		(単位 円)		
科目	予算	差	前年(R5)実績	備考
支出				
通信・文通費	100,000	55,812	44,188	郵便送料&総会交通費
印刷費	300,000	10,780	289,220	会報発行・総会案内状
総会費	530,000	158,108	371,892	総会開催費用全般
事務局費	50,000	19,840	30,160	会議費他
支払手数料	21,000	471	20,529	年会費振替口座手数料
雑費 他	1,000	1,000	0	
支出計	1,002,000	246,011	755,989	
次年度繰越	878,521	-91,990	970,511	
合計	1,880,521	154,021	1,726,500	

(注) 網掛は第59回総会時提案した2号議案の修正箇所



安宅(足立)光江(西高四三年) 一九七〇年万博で働き始め、二〇二五年の万博まで働きたいです。

大川(中島)環(西高四三年) なんとか元氣でいます。ギターと絵、読書など細々と続けています。

寺田(入川)菜摘(西高四四年) 昨年、胆石性膵炎で死ぬかと思いましたが、復活できました。

三木英明(西高四七年) 古稀をすでに超えましたが、いまだ「七〇にして矩を踰えず」の境地に至らず。

佐藤 収(西高四八年) 大阪支社から東京本社に異動となりました。東京でも鳥城会に入会したいと思っています。

米田明弘(西高五二年) 勤続四二年目となりましたが、会社勤務も来年あたりで終わりそうです。

今井岳史(西高五三年) 退職後、趣味など好きなことに熱中しています。現在、「旅行」「観光案内通訳」のボランティアをやっています。

湯上邦夫(西高五三年) 週三日働いて、週四日遊ぶ毎日です。

安木喜俊(上田)かおり(西高平成十一年) 娘も高校三年生、息子は中学一年生。家族の対話を大切に、元気に過ごしていきたいと思っております。

浦川(竹内)ひかり(西高平成一五年) 一〇歳と一歳の子供を育てつつ、整形外科医として働いています。

お悔やみ

連絡頂いた方のみ

- 坂口登祺雄(西高二九年)
 - 米田 哲(西高三〇年)
 - 西村敏弘(西高三三年)
 - 山崎(影井)喜美子(西高三三年)
 - 川島(北脇)英子(西高三七年)
 - 澤田 進(西高三八年)
 - 竹内(井上)千恵子(西高四二年)
 - 岩本 茂(西高四六年)
 - 足立陽一(西高四七年)
 - 松本美智枝(西高四七年)
 - 谷(宇多川)真規子(西高四八年)
 - 田山照久(西高五三年)
 - 西川智子(西高五七年)
- お悔やみ申し上げます。

この号は紙面の都合から、年会費納入者のお名前が掲載できませんでした。合計一〇名の方に納入して頂きました。お礼を申し上げます。

(事務局連絡先)

〒631-0803

奈良市山陵町二二六・一

サンプラザ二〇八

村江 信幸 宛

090-3465-7203

